

備前市事務事業評価表

事業の概要		コード	03-02-05-01
事務事業名	図書館運営事業		
事業開始年度	昭和62年度		
根拠法令・要綱等	図書館法/備前市立図書館設置条例 備前市立図書館設置条例施行規則		
担当課(室)	市立図書館		
職・氏名	主査 大森直子		
電話	0869-64-1133		

事業の実施	
対象(誰・何に対して)	市内在住・在勤の市民
目的(何のために)	図書、記録、その他必要な資料を収集、整理、保存して、市民の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資する。
行政活動(どのような方法で)	図書の貸出、レファレンスサービス(各種問い合わせ対応)、移動図書館車の巡回、乳幼児や児童への読み聞かせ会や行事等の読書推進活動、講座、ブックスタート等の実施。
事業の意図する成果(どのような状態にしたいのか)	市民の全てが、教養、調査研究、レクリエーション等のために図書館を利用し、心豊かな生涯学習を行ってもらうため。

事業の実績				
実施項目	単位	平成17年度実績	平成18年度実績	平成19年度実績
図書館の年間貸出実績	冊	111,786	121,535	134,796
年間入館者数	人	48,192	42,818	45,536
読書啓発行事参加者数	人	2,547	2,953	13,105
ブックスタート参加者人数	人	572	584	669
相互貸借数	冊	887	1,681	1,675
レファレンス件数	件	6,536	6,447	5,876
活動実績				
直接事業費		17,949	24,176	16,495
人件費	千円	10,412	16,235	14,876
事業費計		28,361	40,411	31,371
財源				
国庫支出金				
受益者負担				
市一般財源	千円	28,361	40,411	31,371
必要人員	人	4.31	2.00	1.86

結果指標				
結果指標名	単位	平成17年度実績	平成18年度実績	平成19年度実績
図書の貸出冊数	冊	111,786	121,535	134,796
対前年比	%	-	108.7%	110.9%
活動コスト	円	28,361,000	40,411,000	31,371,000
単位当たりコスト	円	253	332	232
図書館入館者数	人	48,192	42,818	45,536
対前年比	%	-	87.5%	106.3%
活動コスト	円	28,361,000	40,411,000	31,371,000
単位当たりコスト	円	589	943	688

事業の成果			
成果指標名	図書1人あたりの貸出冊数	式又は説明	1人あたりの貸出冊数 = 貸出し冊数 / 人口
成果指標量	2.70	3.00	3.37
対前年比	111.11%	111.11%	112.17%
到達目標値	3.5	到達目標年度	平成21年度

事業の目的、対象、内容を考えてながら目的妥当性の評価を行って下さい。

事業費や単位当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい。

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい。

事務事業の評価			(平成19年度事業)		
目的	<input checked="" type="checkbox"/> 閉法令等で目的が定められており妥当である(法律・政省令)	<input checked="" type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも目的は妥当である	<input checked="" type="checkbox"/> 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている	<input checked="" type="checkbox"/> 事業開始当初の目的から変化している	妥当性評価 <A-E> B
	<input checked="" type="checkbox"/> 対象を見直す必要がある				課題認識
行政活動	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的を達成するためには、現在の行政活動以外に方法はない				
	<input checked="" type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも事業の意図する成果を見直す必要はない				
市民ニーズ	<input checked="" type="checkbox"/> 市民、団体などから要望・要請の強い事業である				
	<input checked="" type="checkbox"/> 本市が関与しなければならない事業である				
市の関与	<input checked="" type="checkbox"/> 事業を取り止めた場合の市民への影響は大きい				
	<input checked="" type="checkbox"/> 事業を取り止めた場合の市民への影響は克服できる範囲内である				
コスト	<input checked="" type="checkbox"/> コスト削減の努力をしており、低減余地は大きい				効率性評価 <A-E> B
	<input checked="" type="checkbox"/> コスト削減の努力はしているが、低減余地は小さい				課題認識
手	<input checked="" type="checkbox"/> サービスを低下させずにコストを低減することは困難				
	<input checked="" type="checkbox"/> サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない				
職	<input checked="" type="checkbox"/> 最適な手段を求めて職場内で改善に努めている				
	<input checked="" type="checkbox"/> 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある				
目的達成度	<input checked="" type="checkbox"/> 事業に関して事務改善等作業効率の向上に努めている				
	<input checked="" type="checkbox"/> 事業に関するOJT(職場研修)は行われている				
成果向上の可能性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業実施について、職員の見解・要望が反映されやすい				
	<input checked="" type="checkbox"/> 成果指標の目標値は目標年度に達成できそうである				
市民参画度	<input checked="" type="checkbox"/> 成果指標は前年度より向上している				有効性評価 <A-E> B
	<input checked="" type="checkbox"/> 成果は向上しており今後も向上する見込みである				課題認識
市民参画度	<input checked="" type="checkbox"/> 今後、成果指標は向上する余地がある				
	<input checked="" type="checkbox"/> 事業について積極的に情報提供している				

平成20年度の状況		説明
<input type="checkbox"/> 重点化している	<input type="checkbox"/> 休止している	
<input type="checkbox"/> 前年度と同様に継続している	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合している	
<input checked="" type="checkbox"/> 見直し継続している	<input type="checkbox"/> 平成19年度で廃止・完了	
<input type="checkbox"/> 事業を縮小している		
目標値	結果指標量 134,796	結果指標量 45,536
結果指標量	3.37	

総合評価		評価区分 <A-E> B
図書のリクエストは、相互貸借や巡回サービスを利用し、なんとか要望に応えることが出来た。定期的な読み聞かせ会は少子化の影響が参加人数は一番前より少ないが定着しているため、続けていく。利用者は備前が60代以上と30代、日生、吉永が7-12歳と30代が多いのが分かったので、それを図書の収集や行事の内容に反映させていくよう考える。また、利用の少ない世代(10代・20代)や地域(大府・三石等)の利用増加の方法を検討する。		

平成21年度以降の方向性	
<input type="checkbox"/> さらに重点化する(行政資源を集中的に投入する)	<input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する
<input type="checkbox"/> 現状のまま継続する	<input type="checkbox"/> 休止・廃止を検討する
<input checked="" type="checkbox"/> 見直しのうえで継続する	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合を検討する

平成21年度以降の改善事項			
評価の視点	改善内容	改善時期	改善により期待される効果
妥当性	HP・館内外での催し物の掲示等による、利用者への図書館サービスの周知徹底。	平成20年度	図書館の様々なサービスや催し物の周知によって、より幅広く利用されるようになる。
効率性	相互貸借の利用と県立図書館資料の貸出・返却の受付サービスのPR。	平成20年度	相互貸借により、資料の有効利用ができる。県立図書館の受付サービスにより、新規利用者が見込まれる。
有効性	子どもの読書推進活動のため、各種行事を行う。	平成20年度	子どもが、読書の楽しさを知り、読書の習慣を養い、将来の利用向上を図る。

